

## 他者との関わり～世界と、仕事と、家庭と

ながれ

竹内 翔 (たけうち しょう／元インターン生、会社員、福岡県糸島市在住)

先の見えない、実に「読みにくい」世の中だと感じます。米国のトランプ氏の動向、長期化するウクライナでの戦争、泥沼化するイスラエルの問題。暴力の応酬が日常のニュースとして流れていることに心が痛みます。

こうしたうねりの中で、日本、そして私たちは、これからどう進むべきなのか。そう自問しても、あまりに大きな問いの前で思考が停止し、「まずは自分の足元でできることをやろう」と、目の前のタスクにフォーカスしてしまう。先の参院選でも、気候変動のような、今すぐ行動を起こさねば手遅れになる中長期的な重要課題はほとんど議論されていない中、政治的には何もできていない自分の無力さを感じています。

特にトランプ氏の言動を見ていると、大きな不安を感じます。彼の「自分ファースト」の姿勢は、目的のためなら他者を犠牲にすることも厭わないというメッセージが世界に発信されています。社会的に影響のある人物がそのような振る舞いを公然と行うことで、一般の人も「自分の利益のためには他者を顧みなくても良い」という空気が蔓延してしまうことを懸念しています。人と人との信頼関係を丁寧に築き、互いを尊重してこそ、物事は円滑に進み、社会は前に進んでいく。私は、そのような社会であってほしいと強く願っています。

他者とどう関わるかは、私が仕事で直面している課題とも強く結びついています。最近、チームを率いる立場になり、どうすればメンバーに主体的に動いてもらえるかと頭を悩ませる日々です。私の理想は、各メンバーが持つ能力を最大限に発揮できるようにすること

です。そのために、まずは相手の話に真摯に耳を傾け、その考えを理解し、一人の人間として認める、という基本的な姿勢を実践しようと努めています。

しかし、現実には理想通りにはいきません。喫緊の課題があると、目先の効率を考えて、つい自分で仕事を巻き取ってしまうのが悩みです。

そして、このマネジメントの悩みは、子育てや子供の教育における悩みと全く一緒です。例えば、我が家の娘たち。親として「〇〇ちゃんにはこんな才能がありそうだ」と感じて、それを一方的に押し付ければ、子供は途端に「イヤだ」と心を閉ざしてしまいます。どこまで機会を提供し、どこからは手を引いて静かに見守るべきか。その潮目を見極めるのは、実に難しいものです。

特に下の娘はその傾向が強く、人から何かを言われることに対して拒否反応を示します。そこで私は、「人から言われた」のではなく、「自分で決めた」という感覚を彼女の中にどう育むか、工夫を凝らしています。思えば、私自身も同じような性格でした。相手が大人であれ子供であれ、結局は「自分が相手の立場だったらどう感じるか」という原点に立ち返り、真摯に向き合うしかないのでしょう。

世界情勢から、職場の人間関係、そして家庭での子育てまで、私の悩みは尽きることがありません。しかし、こうして悩む余裕があるということ自体、実はとても幸せなことなのかもしれません。家族や会社の同僚との関係がおおむね良好で、日々の暮らしが安定しているからこそ、こうした悩みに向き合うことができる。まずはこのことに感謝したいと思います。